

11月15日(火)

ス タ ー へ の 願 望

聖書朗読 ピリピ 2:12~18

思慮深い人々は、大空の輝きのように輝き、多くの者を義とした者は、世々限りなく、星のようになる。
ダニエル 12:3

人は誰も、もう少し誰かに注目してもらいたいという願望があるのではないのでしょうか。「私に気付いて」と悲痛なまでに叫んでいる自分の心の声に気付くことはありませんか。

あのオスカー受賞の晩、大勢の人が集まるロサンゼルスに、お抱え運転手付きのリムジンで登場する大変高価な衣装を身にまとった映画のヒーロー達。彼らの衣装の豪華さといったら、第三世界各国のGNPを遥かに上回るものではないでしょうか。彼らのような存在がこの世ではスターであり、光り輝く存在とされています。

けれども本当に彼らはスターなのでしょうか。東方の博士らは、星を頼りにイエス様の元へやってきました。神の国では、そのような者こそが真のスターなのです。真のスターは、光輝き人々を導くものです。その光自体は人の気を引く存在ではありませんが、この世に來られた真の光なるお方に人々を導くものなのです。

有名になりたいか、
成功も挫折も、
人々からの喝采や非難で決まるものではない。
自分の内にあるものである。

——H・W・ロングフェロー

讚美歌 509

祈り 万物の主であり星を造られたお方である神様。私達もあなた様が造られた星の一つとして輝かせてください。

天の最も輝ける光なるお方のお名前によって祈ります。アーメン。

ダン・ナイト

カンザス州 オーバーランドパーク

11月16日(水)

神を褒め称える歩み

聖書朗読 コロサイ 3:12~25

こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。
へブル 12:28

キャリアは保証され、その分野で名を挙げ、仲間たちからの称賛を受けていたある一人の大学教授。けれども、その名声をすべて打ち捨て、30歳の若さで医療ミッションとしてアフリカへ渡った人物。そして世界的にも著名なオルガニストでありバッハの楽曲の解釈に長けた音楽学者の一人であった人。

その人物の名は、アルベルト・シュヴァイツァー。彼を突き動かしたのは、感謝の思いだったのです。鳥のさえずり、花の香り、教会の鐘の音、窓から降り注ぐ陽の光。そうしたものを褒め称える思いに満たされ、彼は自分の人生の目的が変えられたと言っています。与えられた恵みに自分の目が開かれ、その恵みに、奉仕をもって応えるべきだと思ったのです。30歳までは芸術や科学という学問を追求してきましたが、その後は人に直接仕えようという決意をし、それを貫いたのでした。

これから先の運命は分からない。
けれども、ひとつだけわかっていることがある。
それは、本当に幸福な者というのは、
人に奉仕する道を探し求め、
ついにそれを見出した者だということだ。
——アルベルト・シュヴァイツァー

讚美歌 369

祈り 万物の主よ。今日私たちに与えられている、美しいもの、様々な機会、力を感謝しつつ、あなた様の御前にひれ伏します。必要なものすべてをお与えください。そして、あなた様に仕えるため、また、あなた様のご栄光のために、それらを用いさせて下さい。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

アンディ・ウォール

カリフォルニア州 オークパーク

11月17日(木)

祈りの人生

聖書朗読 Iテサロニケ 5:12~28

絶えず祈りなさい。

Iテサロニケ 5:17

皆さんは自分の祈りのあり方について考えてみたことがありますか。同じ事、同じ人の事をどのくらい頻繁に祈っているでしょう。お祈りは義務感からしているでしょうか。それとも、神様と対話するためでしょうか。義務感を感じてする祈りでも、神様は聞いてくださるのでしょうか。祈りは、命を失わないために、従わなければならない命令なのでしょうか。

このような祈りに関する問いについては、様々な考え方があられるでしょうけれど、完全に満足する答えはないかもしれません。けれども、ここで少しお役に立てるかもしれない答えがあります。ラジオ番組のある有名なタレントのお話ですが、彼は叔父についてこう語っていました。「彼の人生は祈りの人生だった」と。

祈りの人生。そのような生き方は果たして出来るのでしょうか。神を中心とした生き方、讚美、とりなしの祈り、感謝、そして切に願い求めながら生きること。このような生き方は少なくとも理想的には可能かもしれません。意識的にそのような祈りを捧げることで、生き方そのものがそれらを表わすものとなるのではないのでしょうか。私はこれを可能だと考えますし、少なくとも目指すことは出来ると思います。

今、私は自分の人生が祈りの人生となることを神に願い求め、私の内に湧き上がってくる様々な問いに思いが乱されることがないようにと祈ります。皆さんも、根気よく祈り続けることを心がけてみませんか。

讚美歌 308

祈り お父様。私たちの行い、語ることすべてが、あなたとの関わりの内になされますよう助けてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

トニー・アシュ

テキサス州 アビリン

11月18日(金)

信仰熱心な者

聖書朗読 IIテモテ 3:10~17

学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分が、どの人たちからそれを学んだかを知っており、また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。 IIテモテ 3:14~15

あなたの信仰の歩みの上で、英雄と思えるような方々を覚えていますか。糊やクレヨン、紙皿、紙コップなどを使い、何時間もかけてバイブルクラスの準備をしてくれ、あなたの為に祈ってくれた信仰の先輩方。

私にも、暗唱聖句を覚えたことで手作りの金の星をご褒美にくれたり、礼拝のお説教を覚えていたことを褒めてくれたり、また、日々聖書を読み、聖書に関する本を読むことを勧めてくれた教師たちが居たことを覚えています。神様に委ねて良いのだということを見せてくれたのも彼らでした。

こうした信仰熱心な先輩方の存在は、とても大きな力となります。彼らは、テモテの祖母と母、ロイスとユニケのような存在ではないのでしょうか。ロイスとユニケは、IIテモテ1:3~5でパウロが称賛しています。最初にロイスとユニケに宿った信仰が非常に純粹であり、強く堅固であったために、それがテモテに継承されたのだということのパウロが確信したということが、聖書に書かれています。パウロは、テモテに、自らが学び信じてきたことに留まり続けるよう諭しています。テモテもまた、幼いころから聖書を教えてくれたのは、この信仰心の篤い2人の女性だったという事をしっかりと覚えておりました。このような信仰に生きる人々が与えられていることを覚え、主に感謝しましょう。

讚美歌 270

祈り 主よ。あなた様が私たちの歩みにお与えくださったあらゆる素晴らしい方々を感謝します。彼らから学び、彼らに見習っていくことが出来るよう助けてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ジュディ・テイパー

カリフォルニア州 カマリヨ

11月19日(土)

必要は満たされましたか

聖書朗読 ヘブル 7:23~28

キリストは、永遠に存在されるのであって……。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。ヘブル 7:24~25

スーパーのレジでのこと。私が会計のベルトコンベヤーの上に品物を載せると、レジ係が「必要なものはすべて問題なく揃いましたか」とお決まりの文句で聞いてくれたので、私は「実は欲しいヨーグルトがあったのだけど、買いたい味が棚の一番上にあって届かなかったの。でも誰も助けてくれなかったわ」と答えたところ、それに対し「86ドル14セントになります」という言葉が返ってきました。支払いを済ませると、「良い一日を」と言われましたが、とてもむなしく思えました。そのレジ係は、私の言った事など気にも留めず、ましてや、ヨーグルトを取って来てくれるはずもありませんでした。

けれども、イエス様は、私自身と私のリクエストを決してないがしろにされることはありません。何と感謝なことでしょう。イエス様は私の言葉に耳を傾け、私に代わっていつも神様に執り成してくださっています。勿論、すべてが自分の望み通りになるわけではありませんが、イエス様のお考えは、私の一時的な願いよりはるかに偉大なものなのです。奥深くにある私の必要をよくご存知であり、イエス様が良いと思われる方向へと私を向けてくださいます。

イエス様は毎朝新たな恵みを与えてくださいます。私はしばしば、苦難あるいは願い、自分の今後の計画などに思いが捉われすぎて、主の恵みがいかに身近にあり、賜物はいつも最善のタイミングで与えられるということを忘れてしまうことがあります。時にはかすかにしか感じられないこともあるかもしれませんが、優しさに溢れた主の恵みを見出して行こうと思います。いつもすぐ傍にある主の恵みを数えます。

讃美歌 312

祈り 聖なる主よ。誰かに無視されたり、失望したり、傷つけられたりすることがどのようなものであるかを、イエス様が理解してくださることを感謝します。まさに今、イエス様が私の為に神様にとりなしてくださっていることを感謝します。今日、私に与えられた恵みを見出すことができるよう、目を開いてくださいますように。

力なるイエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ビルギー・A・ニーマン

コロラド州 ニューカッスル

11月20日(日)

坂を上る

聖書朗読 ヘブル 10:19~39

しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。ローマ 8:37

一人で趣味の山登りをする時、私は目の前の険しい坂に目を向けます。深呼吸をして、少なくとも下り道はもっと簡単だろうと想像しながら歩き始めます。

頂上に続く、最後の大変な数歩を重い足取りで上り終えた時、息をのむほどの絶景に出会います。谷間から霧の層が現れ始め、秋の色を見せ始めている木々が頂上に生い茂る、起伏にとんだケンタッキー・ヒルが目の前に広がっています。もっとも遠くにある丘を越えて太陽がちょうど顔を出し、陽の光がオレンジや黄色に色づいた、あるいはまだ緑のままの葉の上にきらめきます。「神様、あなたは素晴らしい!」と、

私は息切れしつつ言います。「なんと豪華な報酬でしょうか!」

下り始める時、私は自分の人生の中で険しい上り坂であった時のことを思い返します。試練はどれも私の手におえないものでした。しかし、神様の助けを得て、私はそれらの坂を上り切ることができました。そして乗り越えることを通して以下のような報酬を得ました。より強い忍耐、寛容さ、そして信仰、自分や他者への赦し、同じような試練の中にいる人たちへの同情です。人間としての経験や御言葉を通じて、私たちは全能者の助けによってどんな山でも乗り越えられることを知のです。

讃美歌 398

祈り 天のお父様、私たちが大小の障害に直面した時、あなたに立ち返ることができるように助けてください。あなたの変わらない導きに感謝します。

イエス様の御名により。アーメン。

ラニタ・ブラッドリー・ボイド

ケンタッキー州 フォートトーマス